

そもそも「年金」とは？ 年金の考え方と論点の整理

細野真宏

●テーマ1 年金の「ひっかけ問題」とは？

⇒「未納が増えると年金が破綻する」「今の少子高齢化で年金が破綻する」

そもそも「スタート地点」で誤解が起こっていた

「今の年金制度を変えずに済むならそれにこしたことはない。
だが保険料の未納付増加で制度は破綻する可能性が大きい」
(日経新聞 2008年1月7日付)

峰崎直樹・現内閣官房参与

「7-8年前、私もメンバーになって作ったときは、年金制度を一元化して税でまかなえば、未納、未加入の問題は解消すると考えた。しかし、昨年、社会保障国民会議で、年金財政は未納、未加入問題では破綻しないと示された。

民主党案では、年金保険料を納め終わった世代が、さらに年金のための消費税を納める『二重の負担』が生じるし、不安定雇用労働者の年金問題も当面、実現されない。

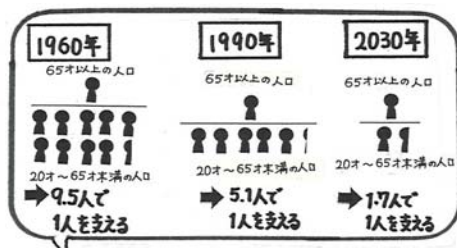
全額税方式にしたら、企業が負担している年金保険料3・7兆円分が、サラリーマン層も含めた国民に転化される。消費税率で1・5%にあたる巨額な企業負担をなくすことは、誠に惜しい。考え直した方がいい」
(産経新聞 2009年7月10日付)

現行制度で国民年金の納付率の前提を置き換えた場合の見通し(名目額)

納付率	基礎年金給付費			
	2009年	2015年	2025年	2050年
90%ケース	19兆円	23兆円	28兆円	57兆円
80%ケース	19兆円	23兆円	28兆円	56兆円
65%ケース	19兆円	23兆円	28兆円	55兆円
うち保険料負担分				
納付率	2009年	2015年	2025年	2050年
90%ケース	9兆円	12兆円	14兆円	28兆円
80%ケース	9兆円	12兆円	14兆円	28兆円
65%ケース	9兆円	12兆円	14兆円	27兆円

※保険料の負担分は、各制度から基礎年金給付費のうちの保険料負担分を示している。
(出典：社会保障国民会議)

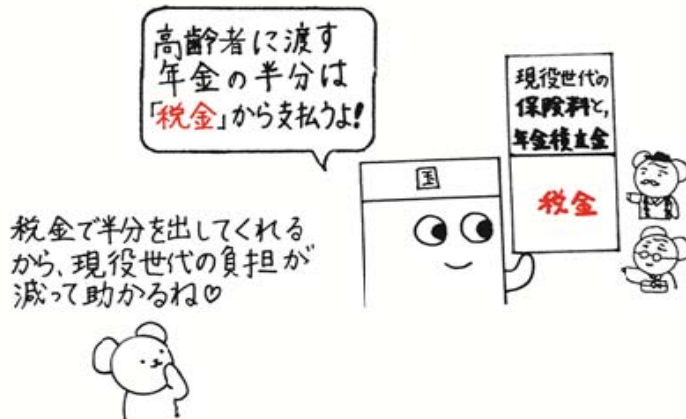
⇒未納が増えても、年金の
財政には殆ど影響はない！



単純にこんな図を見ると保険料が上がり続けると思ってしまうけれど、キチンと保険料の上限を考えた上で計算されているんだね

●テーマ2 年金の「未納問題」の本質は？

⇒そもそも「未納・未加入者」が存在すること自体がおかしい



○所得があるのに「未納・未加入者」になっている

⇒「税金の払い損」の状態になっていて、**本人が損**をしている

⇒「金融・経済教育」を機能させることで、誤解を解いていくことが重要

○所得が少なく「未納・未加入者」になっている

⇒「保険料の免除制度」を活用することで、自分の将来を守ることが重要

国民年金の免除制度

免除種類	所得基準		
	単身世帯	2人世帯 (夫婦)	4人世帯 (夫婦と子ども2人)
全額免除	収入122万円 [※] (税控除後では57万円)	収入152万円 [※] (税控除後では92万円)	収入257万円 [※] (税控除後では162万円)
3/4免除 (1/4納付)	収入158万円 [※] (税控除後では93万円)	収入229万円 [※] (税控除後では142万円)	収入354万円 [※] (税控除後では230万円)
半額免除 (半額納付)	収入227万円 [※] (税控除後では141万円)	収入304万円 [※] (税控除後では195万円)	収入420万円 [※] (税控除後では282万円)
1/4免除 (3/4納付)	収入296万円 [※] (税控除後では189万円)	収入376万円 [※] (税控除後では247万円)	収入486万円 [※] (税控除後では335万円)

(出典：厚生労働省)

※「未納・未加入者」が障害年金をもらえなくなっている社会問題も！

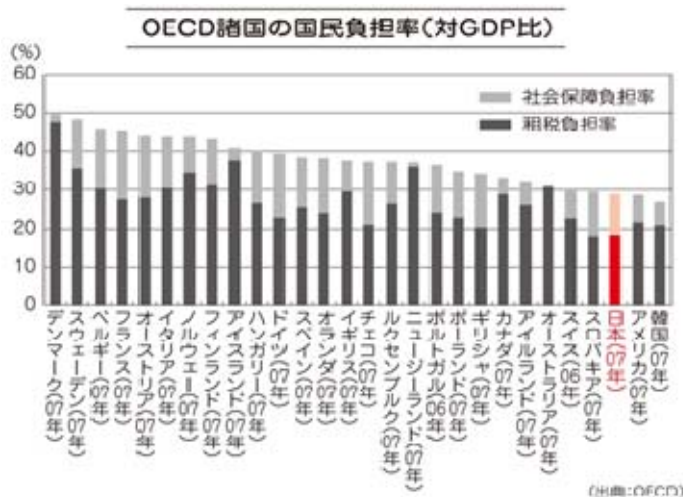
国は、“国民の将来”を守るために「金融・経済教育」を機能させ、

「**未納者ゼロ・キャンペーン**」を打ち出すことが重要！

●テーマ3 「年金が少ない」という話の本質は？

2009年の「財政検証」の結果、現役時代に払った保険料に対して、実質で「国民年金」の場合は平均で1.5倍以上、「厚生年金」の場合だと、2.3倍以上に増えてもらえる（もし国の年金を民間と同じ基準の「名目」で考えると、「国民年金」の場合は、現役時に払った保険料よりも年金は約3倍以上に増え、「厚生年金」の場合は、約4.5倍以上に増えてもらえることになる）

どの世代でも「増えてもらえる」のに、なぜ「少ない」という声が出てくるのか？



Point 1

年金の保険料が少ない

＝手元に残る預貯金が多くなる（そのぶん年金は少なくなる）

Point 2

そもそも日本の年金は、「年金だけで生活していける」という位置づけの制度ではなく、あくまで

「老後の生活の基礎」的な意味合いが強いものである

●テーマ4 実は「年金制度」は、意外とシンプル

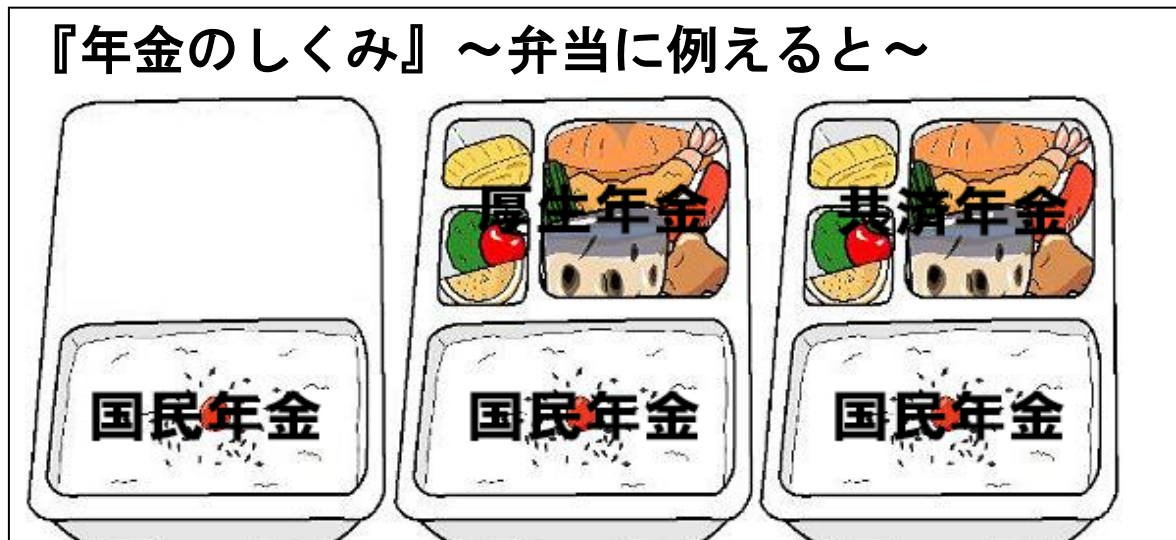
日本の年金 ⇒「老後に国から死ぬまでもらえるお弁当」

●自営業者

⇒定年がないので、“保険料を安くして、最低限のお米だけもらえるようにしよう”という位置づけ

●会社員、公務員

⇒定年があるので、(国民年金より)多めに保険料を払い、将来、「おかず付の弁当」をもらえるようにするもの



さらに、将来「おかず付の年金」が欲しいという自営業者のために「国民年金基金」という“積み立て方式”の制度も用意されている

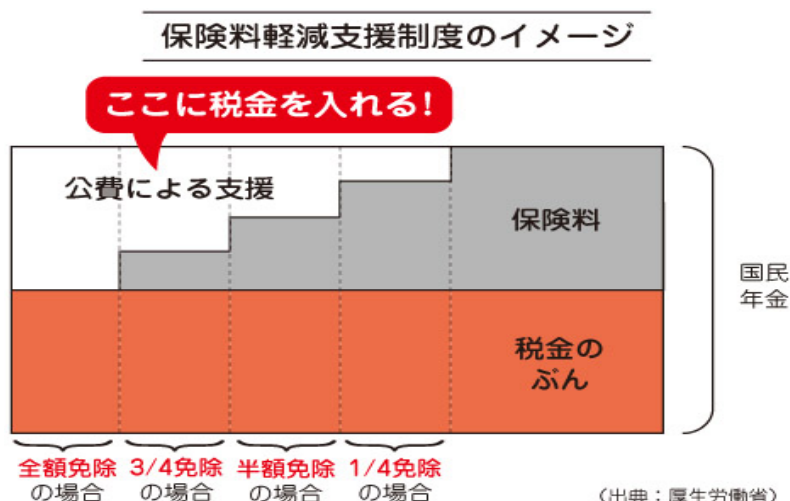


⇒収入に合わせて、自分で保険料を自由に増やせる仕組み（最高で 68,000 円）

追記

なお「最低保障年金」のように一定額の年金を保障する仕組みは、以下のような方法で、現行の年金制度でも導入は可能。

しかし、この場合でも「所得捕捉」の問題が出てくることになる。



※ 図表とイラストは『最新の経済と政治のニュースが世界一わかる本!』
(文藝春秋 細野真宏・2010年)より転載